

お客様各位

大建工業株式会社

防耐火認定書類（写）の使用に際してのご注意

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は弊社製品をご採用またはご検討いただき誠に、ありがとうございます。

ご要望の表記資料を使用いただく際に、注意していただきたい事項がございます。下記事項を、ご確認、ご了解の上、ご利用いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 認定書は、防耐火構造上、国土交通大臣に認められた構造仕様の範囲を示すものです。外壁の仕様、断熱材など各資材は、認定書に記載されている仕様を満たすものを選定するようにお願いいたします。（認定範囲外となった場合、防耐火構造の性能上の問題が生じるおそれがあります。）実際の設計、施工においては、認定書と共に弊社および各材料メーカーのカatalog、施工要領書に記載の事項をご確認いただき、それに従ってください。
2. 各防耐火認定ごとに、建物及び下地の構造（軸組/枠組、木製/鋼製 など）、外装仕上げ材の仕様（基材、厚さ、形状等）、工法（通気、直張り、充填断熱、外張り断熱等）、断熱材の仕様、屋内側防火被覆材（内装材）の指定の有無など認定範囲が異なりますので十分ご確認ください。
3. 認定書は、認定書構造をご採用いただいた物件の確認申請、あるいは防耐火構造としての仕様確認のためにご提供するものです。本来の目的以外ではご使用されないよう、お願いいたします。
4. これらの注意点は新築時だけではなく、外壁や断熱の改修時にも配慮が必要となります。ご留意のほどよろしくお願いいたします。

以上

2025/7/2 改訂



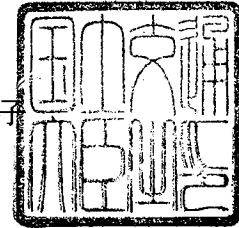
認 定 書

国 住 指 第6807号
平成14年8月23日

大建工業株式会社

代表取締役 井邊博行 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第2条第八号並びに同法施行令第108条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各30分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PC030BE-0139

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

軽量セメントモルタル・火山性ガラス質複層板表張／グラスウール裏張／木製軸組造外壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

1. 構造名

軽量セメントモルタル・火山性ガラス質複層板表張／グラスウール裏張／木製軸組造外壁

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
壁 幅	910 以上
壁 高	9000 以下
壁 厚	126 以上
工 法	(1) ～ (3) のうち、いずれか一仕様とする (1) 非通気工法 (別添－ 7 参照) (2) 通気工法 A (別添－ 8 参照) (3) 通気工法 B (別添－ 9 参照)

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位:mm)

項 目	申 請 構 造
①荷重支持部材	柱 ・断面形状 105×105の断面寸法以上
②外装材	[1] 軽量セメントモルタル [非通気工法および通気工法Bの場合] ・塗厚さ 12 以上 ・比重 練り上がり時 1.1 以上 気乾時 0.9以上 ・組成 (質量%) 普通ポルトランドセメント : 40～65 無機質混和材 : 30～60 有機質混和材 : 10 以下 ・1998年日本建築学会規格「JASS 15M-102」に適合すること。 (但し、曲げ強度 1.96 N/mm^2 以上、吸水量40 g 以下) [通気工法Aの場合] ・塗厚さ 12 以上 ・比重 練り上がり時 1.3 以上 気乾時 1.1以上 ・組成 (質量%) 普通ポルトランドセメント : 40～65 無機質混和材 : 30～60 有機質混和材 : 10 以下 ・1998年日本建築学会規格「JASS 15M-102」に適合すること (但し、曲げ強度 2.45 N/mm^2 以上、吸水量36 g 以下) [2] 補強用繊維ネット (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ガラス繊維ネット ・材質 耐アルカリ性ガラス繊維ネット ・質量 $0.13 (\text{kg/m}^2)$ 以上 (2) 無機質繊維ネット(炭素繊維ネット) ・引張強さ 500 N/25mm 以上 ・質量 $0.13 (\text{kg/m}^2)$ 以上 (3) なし

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
②外装材 (つづき)	[3] ラス (1) ～ (4) のうち、いずれか一仕様とする (1) メタルラス (i) ～ (ii) のうち、いずれか一仕様とする (i) 平ラス 1 号以上 (ii) 波形ラス 1 号以上 (iii) リブラス 1 号以上 ・規格 JIS A 5505 ・質量 0.45 (kg/m²) 以上 (2) ワイヤラス (i) ～ (ii) のうち、いずれか一仕様とする (i) ひし型ラス (ii) 甲形ラス (iii) 丸形ラス ・規格 JIS A 5504 ・質量 0.5 (kg/m²) 以上 (3) 特殊ラス ・質量 0.5 (kg/m²) 以上 (4) 防水紙付き鉄網 ・質量 0.7 (kg/m²) 以上 [4] 火山性ガラス質複層板 ・規格 JIS A 5440 QM-9142 ・厚さ 9.0 以上 ・寸法 最大：1220×3030 最小：455×910 ・実形状 長辺方向：(i) ～ (ii) のうち、いずれか一仕様とする (i) 切り放し (ii) 本実 (iii) 合じゃくり 短辺方向：(i) ～ (ii) のうち、いずれか一仕様とする (i) 切り放し (ii) 本実 (iii) 合じゃくり

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
③胴縁	胴縁 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) あり ・断面形状 13×40の断面寸法以上 ・間隔 1000以下 (2) なし
④補強材	[1] 間柱 ・断面形状 45×105の断面寸法以上 [2] 受材 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) あり ・断面形状 45×105の断面寸法以上 (2) なし
⑤防水シート	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) アスファルトフェルト430 ・規格 JIS A 6005 (2) 透湿防水シート ・規格 JIS A 6111 ・厚さ 0.16 以上
⑥断熱材	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) グラスウール ・規格 平成12年建設省告示第1400号 ・厚さ 50 以上 (2) ロックウール ・規格 平成12年建設省告示第1400号 ・厚さ 50 以上

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①釘 (ねじ)	[1] 火山性ガラス質複層板留め付け用 (1), (2) のうち、いずれか一仕様とする (1) 釘 (イ)～(ハ) のうち、いずれか一仕様とする (イ) N50 (ロ) SFN50 (ハ) CN50 ・規格 JIS A 5508 ・間隔 100以下 (外側) 200以下 (中央) (2) 木ねじ $\phi 3.5$以上$\times \ell 32$ 以上 ・規格 JIS B 1112 ・間隔 100以下 (外側) 200以下 (中央) [2] 胴縁留め付け用 (胴縁を使用する場合に限る) 釘 N65 以上 ・規格 JIS A 5508 ・間隔 500以下 [3] ラス止め付け用 [非通気工法および通気工法Bの場合] (1)～(4) のうち、いずれか一仕様とする (1) またくぎ ・寸法 $\phi 1.56$以上$\times \ell 25$ 以上 ・間隔 300以下 (2) ステープル ・寸法 10以上$\times 19$以上 ・規格 JIS A 5556 ・足長 19以上 ・線材断面寸法 1.3$\times 0.8$以上 ・間隔 200以下 (3) ステープル ・寸法 12以上$\times 13$以上 ・足長 13以上 ・線材断面寸法 0.7$\times 0.5$以上 ・間隔 100本/m²以上 (4) 釘 N38 ・規格 JIS A 5508 ・間隔 150以下

項 目	申 請 構 造
①釘（ねじ） （つづき）	[通気工法Aの場合] (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) ステープル 肩幅6以上×25以上（足長25以上、線材断面寸法1.3×0.8以上） ・間隔 200以下 (2) 釘 N38 ・規格 JIS A 5508 ・間隔 150以下
②補助胴縁	補助胴縁 (1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 木材 ・断面形状 13×40の断面寸法以上 ・間隔 500以下 (2) 塩化ビニル系樹脂 ・断面形状 13×13の断面寸法以上 ・間隔 500以下 (3) なし

4. 構造説明図

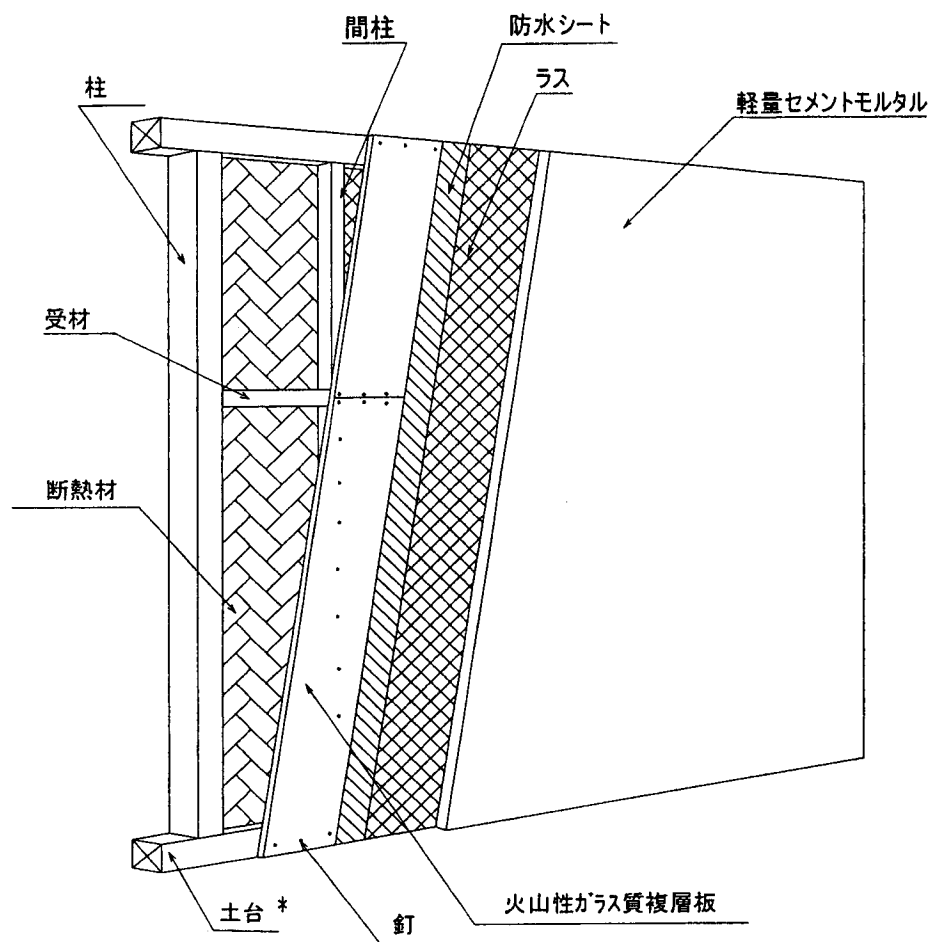


図4-1：非通気工法（透視図）

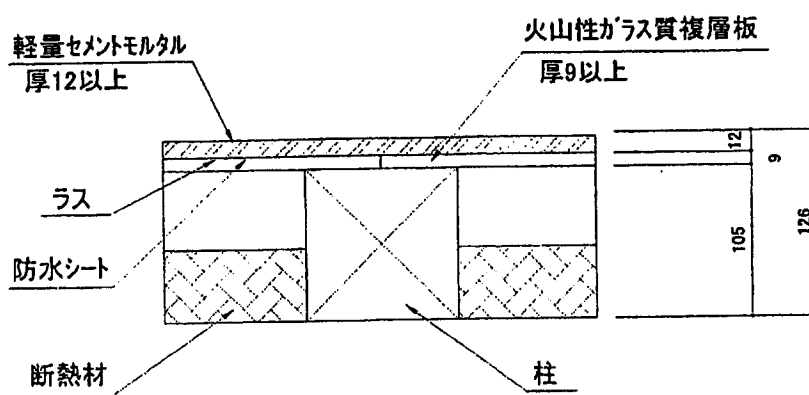


図4-2：非通気工法（断面図）

注) 寸法は3のとおり

*：本評価内容に含まない。

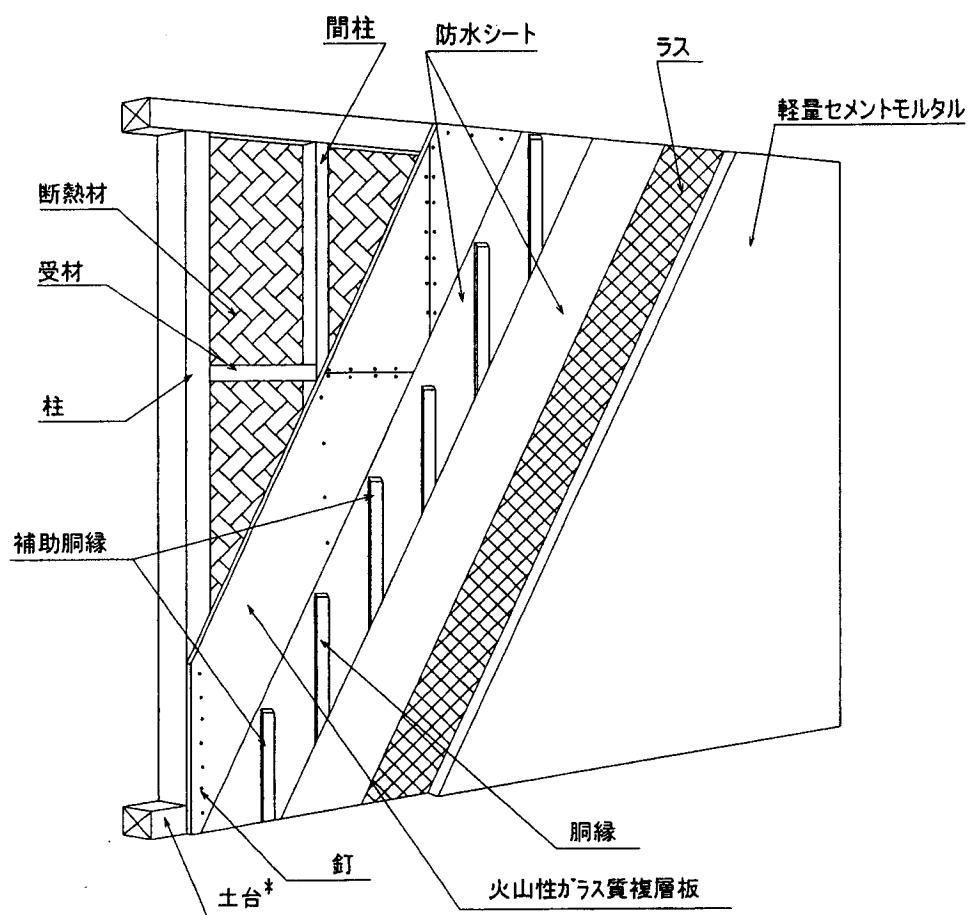


図 4 - 3 : 通気工法 A (透視図)

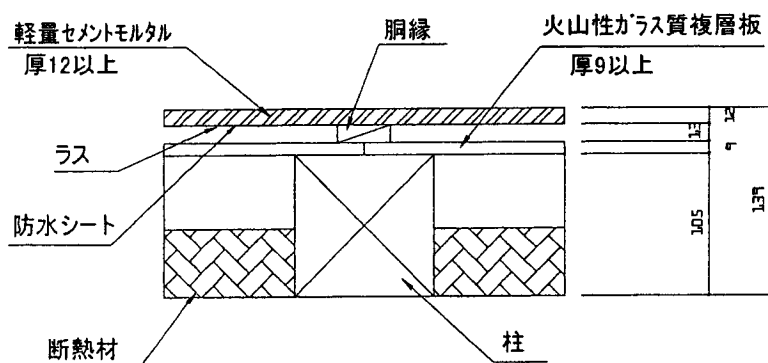


図 4 - 4 : 通気工法 A (断面図)

注) 寸法は 3 のとおり

* : 本評価内容に含まない.

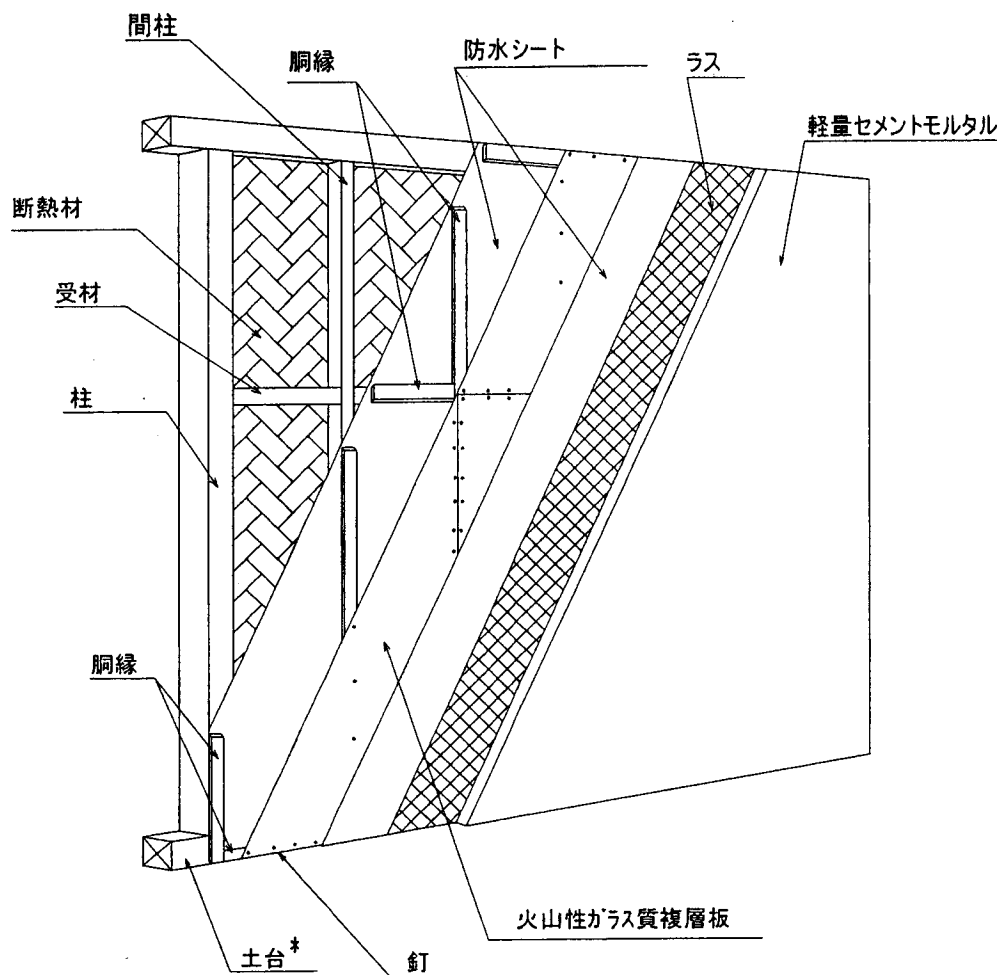


図 4 - 5 : 通気工法 B (透視図)

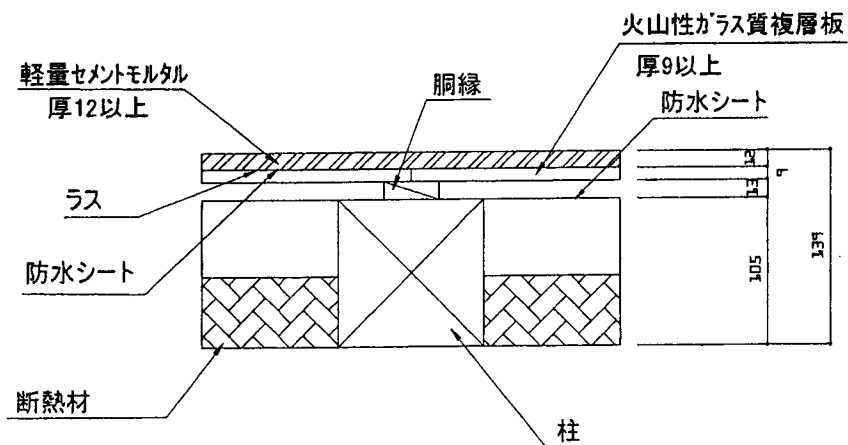


図 4 - 6 : 通気工法 B (断面図)

注) 寸法は 3 のとおり

* : 本評価内容に含まない.

5. 施工方法

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

①非通気工法の場合

- 1) 下地
 - ・ 柱、間柱等は反り・曲り等のないものを使用する。
 - ・ 柱と横架材とは上下長ほぞ差しとし、接合金物を用いてN75以上の釘で固定する。
 - ・ 間柱と横架材との仕口は、上部ほぞ差し、下部突付けとし、N75以上の釘で斜め打ちする。
- 2) パネル張
 - ・ 火山性ガラス質複層板を釘 (N50) 等で縦張固定する。
 - 釘ピッチは周辺部 100 mm以下、中央部 200 mm以下とする。
- 3) 断熱材
 - ・ 柱、間柱の間に断熱材を内装材側に敷き詰める。
- 4) 防水シート・パネルの上にアスファルトフェルト又は透湿防水シートをステープル等で留め付ける。
- 5) ラス
 - ・ メタルラス、ワイヤラスは、また釘で柱、間柱の上に 300 ピッチ以下で留め付ける。
 - タッカー釘の場合は、柱、間柱の上に 200 ピッチ以下で留め付ける。
 - ・ リブラスは釘もしくはステープルで、柱、間柱の上に 150 ピッチ以下で留め付ける。
 - ・ 継ぎ目は縦横とも 30 以上重ね、ラスの浮き上がり、たるみの無い様にステープル等で留め付ける。
- 6) 外装材
 - ・ 軽量セメントモルタルは 2 回以上に分けて塗る。
 - 塗厚は、アスファルトフェルト表面より 12 以上確保する。
 - (補強用繊維ネットを張付ける場合)
 - ・ 下塗後、直ちに補強用繊維ネットを張、こてで押さえ軽量セメントモルタルと馴染ませる。
 - ・ 上塗後、養生期間は 10 日以上 (冬季 14 日以上) とする。

②通気工法Aの場合

- 1) 下地
 - ・ 柱、間柱等は反り・曲り等のないものを使用する。
 - ・ 柱と横架材とは上下長ほぞ差しとし、接合金物を用いてN75以上の釘で固定する。
 - ・ 間柱と横架材との仕口は、上部ほぞ差し、下部突付けとし、N75以上の釘で斜め打ちする。
- 2) パネル張
 - ・ 火山性ガラス質複層板を釘 (N50) 等で縦張固定する。
 - 釘ピッチは周辺部 100 mm以下、中央部 200 mm以下とする。
- 3) 断熱材
 - ・ 柱、間柱の間に断熱材を内装材側に敷き詰める。
- 4) 防水シート・パネル上にアスファルトフェルト又は透湿防水シートをステープル等で留め付ける。

- 5) 胴縁の取付け ・ 胴縁の取付けは、釘 (N65) で釘ピッチ 500 mm以下で留め付ける。
補助胴縁（木製）を取付ける場合には土台、梁に釘で留め付ける
樹脂製の補助胴縁を使用する場合には、粘着テープなどで固定する。
- 6) 防水シート ・ 胴縁上にアスファルトフェルト又は透湿防水シートをステープル等で留め付ける。
但し、「防水紙付き鉄網」を使用する場合は不要。
- 7) ラス ・ メタルラス、ワイヤラスは、また釘で柱、間柱の上に 300 ピッチ以下で留め付ける。
ステープルの場合は、柱、間柱の上に 200 ピッチ以下で留め付ける。
・ リブラスは釘もしくはステープルで、柱、間柱の上に 150 ピッチ以下で留め付ける。
・ 継ぎ目は縦横とも 30 以上重ね、ラスの浮き上がり、たるみの無い様にステープルで留め付ける。
- 8) 外装材 ・ 軽量セメントモルタルは 2 回以上に分けて塗る。
塗厚は、アスファルトフェルト表面より 12 以上確保する。
(補強用繊維ネットを張付ける場合)
・ 下塗後、直ちに補強用繊維ネットを張、こてで押さえ軽量セメントモルタルと馴染ませる。
・ 上塗後、養生期間は 10 日以上（冬季 14 日以上）とする。

③通気工法Bの場合

- 1) 下地 ・ 柱、間柱等は反り・曲り等のないものを使用する。
・ 柱と横架材とは上下長はぞ差しとし、接合金物を用いて N75 以上の釘で固定する。
・ 間柱と横架材との仕口は、上部はぞ差し、下部突付けとし、N75 以上の釘で斜め打ちする。
- 2) 防水シート ・ 柱、間柱の上にアスファルトフェルト又は透湿防水シートをステープル等で留め付ける。
- 3) 胴縁の取付け ・ 胴縁は柱、間柱、土台、梁に取付ける。
胴縁の取付けは、釘 (N65) で釘ピッチ 500 mm以下で留め付ける。
- 4) パネル張り ・ 火山性ガラス質複層板を釘 (N50) 等で縦張固定する。
釘ピッチは周辺部 100 mm以下、中央部 200 mm以下とする。
- 5) 断熱材 ・ 柱、間柱の間に断熱材を内装材側に敷き詰める。
- 6) 防水シート ・ パネルの上にアスファルトフェルト又は透湿防水シートをステープル等で留め付ける。
- 7) ラス ・ メタルラス、ワイヤラスは、また釘で柱、間柱の上に 300 ピッチ以下で留め付ける。
ステープルの場合は、柱、間柱の上に 200 ピッチ以下で留め付ける。
・ リブラスは釘もしくはタッカー釘で、柱、間柱の上に 150 ピッチ以下で留め付ける。
・ 継ぎ目は縦横とも 30 以上重ね、ラスの浮き上がり、たるみの無い様にステープル等で留め付ける。

8) 外装材

- ・ 軽量セメントモルタルは 2 回以上に分けて塗る。
塗厚は、アスファルトフェルト表面より 12 以上確保する。
(補強用繊維ネットを張付ける場合)
- ・ 下塗後、直ちに補強用繊維ネットを張、こてで押さえ軽量セメントモルタルと馴染ませる。
- ・ 上塗後、養生期間は 10 日以上 (冬季 14 日以上) とする。